

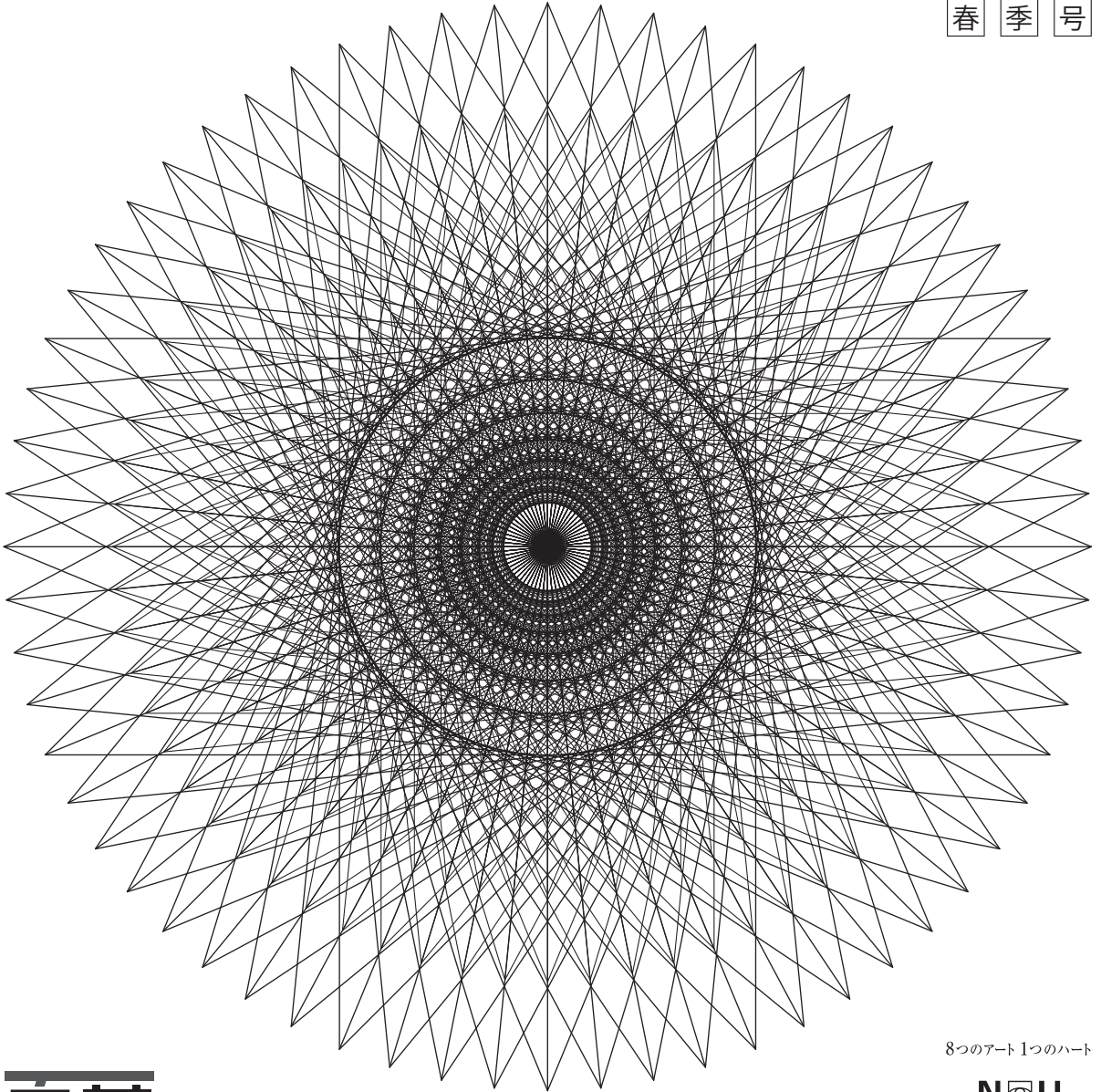
# Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

104

2020

春季号



8つのアート 1つのハート

**NU**  
Nihon University College of Art  
**Art**

日本大学芸術学部

**百藝**  
1921-創設100周年-2021  
Nihon University College of Art

# CONTENTS

第13回日藝賞記念講演	03
第14回日芸賞	05
江古田会ニュース	
石川江古田会・新潟江古田会	06
愛知江古田会・岩手江古田会	07
台湾江古田会・秋田江古田会	08
皆さん今日は!	09
お世話になった先生方	11
ウンレン・ブンレン 運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中	12
思い出のクラブハウス	12
学科ニュース	
写真学科・映画学科	13
美術学科・音楽学科	14
文芸学科・演劇学科	15
放送学科・デザイン学科	16
学部の優秀者	17
日本大学芸術学部校友会の皆さんへ	18
校友会からのお知らせ	19
日本大学芸術学部校友会各支部(江古田会)連絡表	21
編集後記	22

## 日藝校友会総会 延期

令和2年度総会・懇親会は  
この度の新型コロナウイルス  
感染症の状況を鑑み  
懇親会は中止。  
総会は延期とし、  
総会の開催時期は  
今後検討を行います。

今年度は任期に伴い  
役員改選の年ではありますが、  
このような状況ですので  
総会までは現在の役員が  
続けますことを  
ご了承ください。

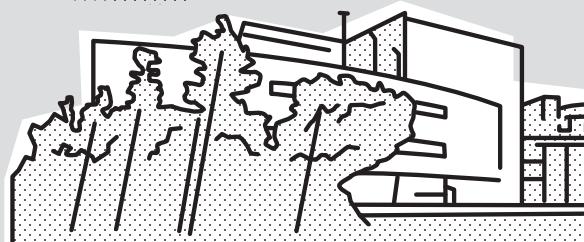
2020年11月下旬～12月上旬予定

### ■総会 デザイン

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、グラフィックデザイン全般(ポスター、パンフレット、ロゴ作成等)を担う。03-5999-8611

(株)スピーチ・パルーン▶1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。絵本、コミックほか書籍の編集・制作、各種イベントの企画構成・設営等も行っている。03-5999-6911

Email:info@my1973.com



「会いたい」と思う人がいますか？

年に一度の校友会総会は延期となりました。  
首を長くしてお待ちください。

令和2年度

# 日藝校友会 総会

# 延期

のお知らせ

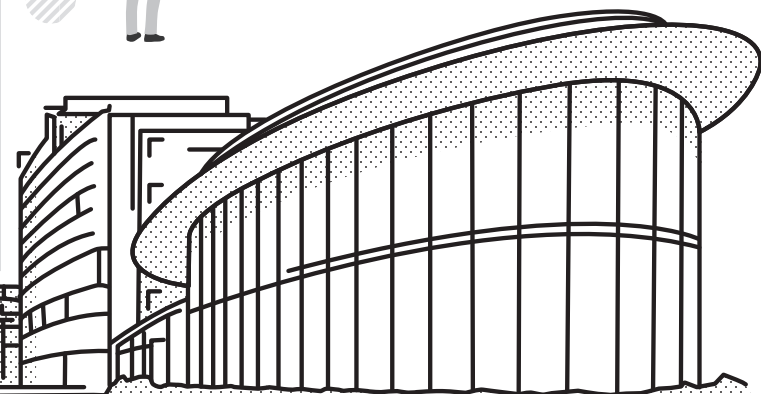
お問い合わせ先



日本大学芸術学部  
校友会事務局

TEL. 03-3554-5363

e-mail. [ekoda.koyu@gmail.com](mailto:ekoda.koyu@gmail.com)



### <声優になったきっかけ>

テレビ業界に憧れがありました。「放送に携われるならなんでもやってみよう。」そんな気持ちで日大芸術学部の門を叩きました。

1年の時にテレビ制作に入ります。その時に作ったテレビの企画は、当時流行っていた番組を模したもので、でも今思えば全然面白くない。自分が自信を持って作った作品を、当時のテレビ制作の先生に酷評されて挫折しました。

テレビはチームプレーということとその当時の僕は分かっていませんでした。

それまで僕は、人とコミュニケーションを取るの是最小限でいいと思っていました。でもテレビ制作はそれでは成り立ちません。

挫折して逃げ込んだのがラジオ制作でした。何がいかって人が少ない。ラジオ番組は最少2人で録れてしまう。ラジオ制作には、僕のように人とコミュニケーションを取るのがそんなに得意じゃないけど、何かものを作りたい人がいっぱいいました。

ある時ラジオドラマの出演者が足りなくなることがあります。

その時にマイク前に立ったのが僕の最初の声優体験でした。当時ディレクションをしていた同級生が言ってくれました。「いい声だね。」と。

ラジオ制作に来て、自分が思ってもみなかったところで、初めて褒められた。それがとても嬉しくて、僕は声優になろうと決意します。

3年生になって、自分の声を磨きたいが為だけにアナウンス実習に通いました。アナウンス実習は声で何かを伝えることを勉強・修練する場所であるから声優を目指したいということは何らおかし

くないわけです。そして僕はもう一つ掛け持ちをします。それは青二塾の日曜制でした。ここから僕は、どんどん声優の道へと進んでいきます。

### <日芸ならではのこと>

大学の時に出会った人というのは、人生をちょっとずつ動かしてくれます。

おかげで人とコミュニケーションが取れるようになりました。日芸で出会った人たちは僕の

人生を作ってくれている。これは間違いありません。皆さん

もきっといろんな授業や聴講に行っていると思います。これ(日藝賞講演会)も聴講です。僕の時代は音声学という、音楽学科の声の出し方を耳鼻咽喉科の先生から医学的に学ぶ授業がありました。声の仕事に関わることだったら何でも学びたいと思い、聴講してました。この学校には後々ためになるような授業が色々あるんです。

ライブラリに行けばいろんな音楽や、効果音に触れられる。図書館に行けばいろんな本が置いてある。演技論の本もあれば映画だって見られる。

大学を色々有効活用してください。皆さんが吸収できることがそこら中にあります。いろんな授業を受けることをお勧めします。

### <バイト先での経験>

皆さんバイトしていますか？僕は3年の頃に出会った教授にバイトを紹介されました。役者さんたちが繰り広げる朗読ドラマライブのお手伝いです。声優を目指しているんだったらそこに手伝いに来ればと言われたんです。そこで教授や先輩たちに「大ちゃん、大ちゃん」



と本当にかわいがってもらいました。

橋爪功さんの朗読や、落語の高座も連れて行ってもらいました。

落語を文章に起こすバイトも紹介してもらいました。落語を聞いて文章をチェックし校正。「終わればあとはネットサーフィンしていて良いよ。」という寛大なバイトでした。そこに3、4年ずっとお世話になっていました。

落語は今も好きです。落語は一人芝居の究極の形です。所作、効果音、見る向きによって人物を変えていく。落語家は一人でその場で演じ分けて表現する。落語って自由にしゃべっているなって思っていたんですけど、演じ分けの基礎がそこにありました。落語家さんって本当にすごい、と一時期は漁るように古典落語の文献を読んだり、昔の名人の音源を聴いたりして大学時代を過ごしました。

### <声優になってから挫折>

養成所に入り役者になって2年目くら

いで番組レギュラーを頂きました。この時点でもう食べていけるようになったんです。運が良かった。

ところがある日壁にぶち当たります。先輩に「小野君は人のセリフ聞いていないね」と言われました。

同じ時期に僕の師匠、納谷六朗さんからもある大事な言葉をもらいます。納谷さんが言った言葉は「声優は耳が良くなければならない。」でした。喉や声帯じゃないんですか？と思いました。その意味は「声優は人のセリフを聞いて、変わることができなければならない」ということです。例えば人のセリフを聞いて返す言葉と、自分一人で言っている言葉は全く違ってきます。声にどんな思いを乗せるか、その思いを受け取れるか、それを教えてくれたんです。それが若手デビュー3~4年目の頃でした。そこからだんだんと僕の芝居というのは変わっていったように思います。

### <永井一郎さんとスタニスラフスキー>

僕は納谷六朗師匠に出会う前にもう一人の師匠に出会っています。それが「朗読のススメ」という本を書かれた永井一郎さんです。

永井さんが書かれた「朗読のススメ」という本の中では、スタニスラフスキーの演技論の「貫通行動」という言葉をわかりやすく紐解いてくれています。スタニスラフスキーは昔のロシアの劇作家であり俳優でもある方で「表現は行動である」という言葉を遺しています。僕は学生の頃「カッコいいから」という理由で好きな作品の決め台詞を真似して遊んでいました。決め台詞をテープレコーダーに録って一人で楽しんでいました。改めて考えると、決め台詞だけを一人で練習するのは、本当に愚行でしたね。

貫通行動イコール幸福願望だと永井さんは言っています。例えば僕なら、僕の幸福は声優をやっていること。声優を続

けていることです。声優を続けていくために何をすればいいのか。自分がやっているありとあらゆることがそこに基づいている。そう考えるとお芝居は急にリアリティを帯びてきます。

「ゴホン」咳払いをしましたね。なぜかという今、みなさんに伝えられる声を整えたいからです。メッセージを伝えたいからです。この「咳払い」。意味がありますよね？役者はなぜ咳払いするのか、と考えます。「ため息」をついたとします。なぜ「ため息」をつくのか。それは全部その前の行動、そのあとの幸福願望の一つの線上に繋がっている。だからその「ため息」や「咳払い」だけを切り取ってもならん意味を持たない。そこだけを練習しても意味がないんです。「幸福願望を見つけること。」それが役を演じる上で一番大切なことになっています。

例を挙げたいと思います。サラリーマンだと家族を守る。嫌でも会社に行きます。嫌でも朝起きます。それはその先にある家族を守る。人生を最後まで生き抜くために必要だからそれをやっている訳なんです。

大げさな話をいうと殺人鬼だって演じられます。共感を持ってませんけれど、その人の幸福願望が分かれば演じることができます。理由はないかもしれませんが殺すのが気持ちいいんでしょうね。それを得たいから人を殺す。なので殺人鬼を僕はリアリティを持って演じられます。僕は一つ一つの役の幸福願望を探して、ここまで役を演じてきました。

### <最後に>

皆が幸福願望について考えるきっかけになってくれればいいなと思っています。今、僕の幸福願望は声優であり続けることです。そのために声を磨き続けますし、ボイストレーニングに行きます。歌も上手になりたいと思います。そのためにも健康であり続けようと思います

し、いろんな人とコミュニケーションを取っていこうと思います。

僕は本当に人見知りでした。今も人見知りです。人と話すことは苦手です。でも人とコミュニケーションを取る。ということは、イコール人と物を作っていくことだと思います。だから僕は人と話します。人の目を見て、こうしてメッセージを伝えられることを今、本当に嬉しいと思っています。誰にメッセージを伝えたいか？後輩です。僕のお仕事のベースは、先輩からももらったこと。納谷六朗さん、永井一郎さんや江崎プロダクション（現・マウスプロモーション）の先輩たち、いろんな人と関わり合ってきた。それをベースに今僕はお芝居をやっています。

僕が声優であり続けるという幸福願望を叶えるためには何をしなくちゃいけないか。僕がいいと思った演技、思い、メッセージを後輩に伝えることだと思います。伝えたことが正しかった、良い生き方であったかということは、声優になろうとしている後輩が今後証明してくれると思います。だから僕はこれからもずっと後輩にメッセージを伝えていきたいと思っています。制作する方についても同じです。ものを作る上で大事なことは人と関わりながら作ることです。天才でも一人ではものは作れません。僕は人からいろんなものをもらいました。その中から自分のやり方、自分の演技論、自分の声優としての生き方を見つけました。皆さんも決して一人でものを作ろうと思わないでください。コミュニケーションを取って、ちゃんと話して、お互いに認め合っものを作って行って欲しいと思います。僕が日芸生として一番誇りに思う幸せなことは、この後現場で皆さんに会うことです。

また現場で会って、一緒に仕事をしましょう。

---

---

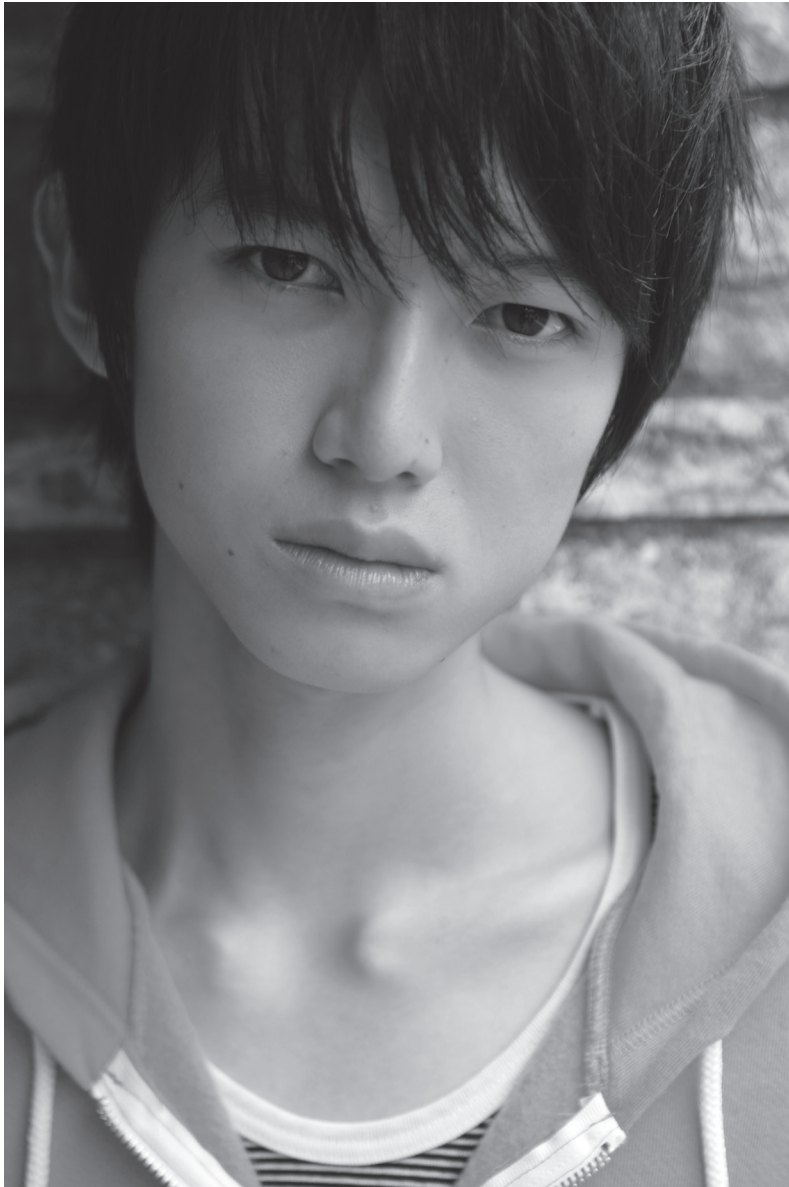
# 第14回日藝賞決定

---

---

2020年の日藝賞は俳優の本郷奏多氏です。

日藝賞および日藝アンバサダーとして、日藝の広報活動にご協力いただきます。



## 本郷奏多 プロフィール

写真学科 H24・2012年度卒業

1990年11月15日生まれ、宮城県出身。  
2002年映画『リターナー』で俳優デビュー。以降、2005年『HINOKIO』で映画初主演を務め、主演映画『テニスの王子様』や映画『NANA2』など話題作品に多数出演。

その後、2011年公開の映画『GANTZ』を皮切りに『進撃の巨人』、『鋼の錬金術師』、『いぬやしき』など大ヒット漫画原作の実写映画にキーパーソンとして出演が続き、再現度の高さから注目を集める。昨年は実写邦画ナンバーワンの大ヒットを記録した映画『キングダム』に出演した他、映画『Diner ダイナー』や主演映画『凧-りん-』、主演ドラマ『あおぞくら 防衛大学校物語』などに出演。今年もNHK大河ドラマ『麒麟がくる』、NHKBSプレミアム『56年目の失恋』、『大江戸もののけ物語』、実写ムービーゲーム『Death Come True』、主演映画『戦国ガールと剣道ボーイ』が公開予定など活躍の幅を広げている。

## 石川江古田会

石川江古田会第五回総会・懇親会は2019年9月7日、金沢市のANAクラウンプラザホテルで開かれました。

北陸新幹線開通の2015年に設立してから早5年目を迎え、来年は5周年となります。

また、今回の総会・懇親会に先立って、会報「いんぎら〜っと」第5号を案内状とともに配布しました。2018から2019年にかけては当会后援の展覧会やコンサートなどが続きましたので、その模様を特集しています。

総会は北門会長の挨拶に続いて、本年度の活動報告や予算の承認など滞りなく進行し、役員については来期以降も現メンバーの続投が表明されました。

懇親会に先立ち、会員の米田洋氏による講演会が行われました。米田氏は県内の医療系大学で広報を担われています。「人生100年時代」をどう健康で過ごしていくかを、わかりやすい切り口で解説いただき、「友達の数で寿命は決まる」などの指摘に参加者一同、興味深く聞き入りました。

懇親会では木村学部長と田上校友会長にご祝辞を頂戴いたしました。両氏とも金沢に定期的に来られるのを楽しみにして下さっていると、嬉しいお言葉を頂きました。

木村学部長は先の講演会に触れられ、自分は昆虫の新種の研究を見届げるため人生500年は生きたいと、ユーモアと情熱溢れるお話を語られました。

歓談では年に一度の再会を喜びあいながら、来年の5周年に向けての活動についても話題に上り、賑やかな声が途切れることなく、あっという間に中締め時間を迎えていました。



## 新潟江古田会

令和を迎えて初めての新潟江古田会総会が、令和元年9月14日（土）ANAクラウンプラザホテル新潟にて18時より開催されました。

若手の同窓生になかなか連絡が繋がらず、少人数でしたがお互いの情報交換や木村学部長、田上校友会長から有意義なお話をお聞きし、楽しい時間を過ごすことができました。

ぜひ同窓の皆さんお誘い合わせの上、新潟江古田会総会へご参加くださいますようお願いいたします。

現在、新潟県在住の卒業生は240名以上いらっしゃいます。今後の会の発展を目指して、新潟県および周辺の地区にお住いの卒業生の方々の新潟江古田会への入会を募集しています。

お問い合わせは新潟江古田会事務局 tel 025-233-3910  
fax 025-233-3551 スタジオ ポートイマジン内 増井まで。



## 愛知江古田会

令和初となる第4回愛知江古田会総会が、令和元年9月27日（金）ホテルキャスプルプラザで開かれ、来賓4名、会員28名の計32名が参加しました。総会は順調に運び、会計報告・予算等が承認され、その後、木村政司芸術学部長、田上竣詞校友会会長、桑折洋一宮城江古田会会長、川村晃生熊本江古田会事務局長の各来賓から、祝辞やお土産を頂きました。

懇親会においては、一年ぶりの楽しいひと時を満喫。初参加の4名のスピーチやインド舞踊の先駆者である櫻井暁美先輩（演劇S37年度卒）とお弟子さんによる演舞が披露され、会をより華やかに盛り上げて下さいました。

また、同会場内にて開かれた二次会では、参加者の過半数が出席し、今回の出席者の中で最年長である田口豊太郎先輩（放送S37年度卒）ともお話しすることができ、世代を超えた素敵な懇親会となりました。

昨年より最年少幹事としてお手伝いさせて頂くことになり、この会の特徴である「平成」と「女性」二つの「セイ」も順調に拡大。同期の福沢香江氏（演劇H15年度卒）、菰田久美子氏（デザインH17年度卒）といった若手女性メンバーも増え続けています。

愛知江古田会は、益々の発展を目指してメンバーを募集しております。東海地区在住及び東海地区に所縁のあるOB・OGの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

お問い合わせは藤田支部長（090-1783-5103）まで。

三富 由杏子（演劇H15・2003年度卒）



## 岩手江古田会

令和元年10月19日土曜日・盛岡ホテルメトロポリタンニューウイング割烹「むかいつる」にて第15回江古田会が田上校友会会長、高橋文一日大会岩手支部長、桑折洋一宮城江古田会会長の御臨席の下、開催されました。総会では岩手江古田会創立に御尽力賜り、10年以上会長をお勤め頂いた國分一彦先輩が退任され、本年度より鈴木勝博君が会長に就任いたしました。同窓では珍しい県立高等学校校長職にあります。毎年席上で学部長先生や校友会会長がおっしゃる、「地方からの学生が減少傾向」に歯止めを掛けて欲しいとの願いも込められての就任です。役員改選も含め僅か30分の総会でした。慶弔関連報告では高橋比奈子会員の御子息が県会議員当選（彼も日大同窓）、山崎文子会員の出版記念等、嬉しい話題に参加者の笑顔がこぼれました。懇親会では田上会長から校友会会長任期満了までに改革すべき事柄等、大切な話を拝聴しました。岩手江古田会としては田上会長の続投を心から祈る声が、たくさん寄せられました。桑折会長の乾杯の発声で、松茸香る趣向を凝らした美味しい料理に舌鼓を打ちながらビールやお酒がどんどん進みました。二次会は同ホテル2階のジョバンニのバーコーナーで好きな洋酒を傾けながら岩手江古田会の15年を振り返り話に花が咲きました。





## 台湾江古田会

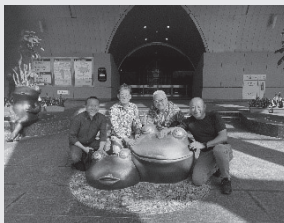
■今年の六月に台湾江古田会会長の座を拝命して以来、責任を感じたのと同時に、期待も膨らませました。

台湾江古田会は十数年前に、陳榮明先輩が積極的に推進したおかげで結成しました。それからその意志は林俊宏氏や黃國鈞氏など先代の會長に受け継がれて、本会は成長を続けました。この年度の目標は様々な活動を通して、台湾江古田会の会員間の仲を深めるだけでなく、母校との交流も図り、母校に帰って交流展を開催するという会を作りました。この展覧会が実現する前に、ウォーミングアップを兼ねているようなイベントを行いました。



(集合写真撮影 陳宗蔚 放送H17・2005年度卒)

■例えば十月に美術学科彫刻コースの鞍掛教授が学生たちを連れて、台湾で開催されているロマンチック台三線芸術祭に訪れました。さらに、總統府前のカイトタケラン大通りで、私たちが主催する「内山日晒柿子晒恩愛」という大型ランドアート芸術イベントにも参加していただきました。当日は、蔡英文總統も出席されました。その後は、台湾の校友たちとも食事会を開き、親睦を深めました。



■十一月には木村学部長をはじめ、田上会長及び宮城江古田会の桑折会長に、台湾校友会の方々とグランドホテルで開かれている年会に参加していただきました。このようなイベントを通して、台湾と日本の校友の友好的な関係がより一層深まりました。この友誼は台湾江古田会によって、日々に深まり、年に増していけたらと思っております。

(台湾江古田会会長 林 舜龍 美術S61・1986年度卒)

## 秋田江古田会

秋田江古田会は、令和元年度第13回総会を12月14日（土）午後5時から秋田市の割烹「濱乃家（はまのや）」で開催いたしました。

ご来賓に、木村政司学部長、田上峻詞校友会長の他、宮城江古田の桑折洋一会長のご臨席をいただき開催いたしました。

平成30年度の活動報告、決算報告に続き、平成31年、令和元年度の事業計画について協議いたしました。

支部長の挨拶で総会に参加する会員数の減少が著しく、会としての活動に支障をきたす状態であるため会員の掘り起こしが必要であることや東北ブロックの交流があればいいとのお話が出ました。

又、次年度の事業については、会の発展向上などに努める交流会などを随時開き具体的な事案を検討することや会員の行う各事業への協力、又、会報の発行の継続を承認されました。

総会後の懇親会では日本大学の校歌斉唱に始まり、支部長、ご来賓の挨拶のあと出席者の自己紹介と大学の情報などが紹介されました。学部長が今回副学長に就任されたことに対する参加者のお祝い、現在の各江古田会の抱える会員減少の問題について、若い参加者が多く来やすい環境を作っている支部のやり方などの貴重なアドバイスをいただきました。今回は秋田を代表するきりたんぼ料理のおいしい会場で開かれたことにより、料理とお酒に舌づつみを打ちながら和気あいあいと学生時代のことなどに花が咲きました。

文：秋田江古田会事務局長 仙北屋昭弘



## 河西宏樹 (写真)

幼い頃から野鳥に興味があり、観察の記録としてカメラを持ったことから、写真との付き合いが始まりました。日芸では現像やプリント技法から始まり、正しい色の感覚を身に付けるためのカラー実習、カメラメカニズムなど、入学当初から多くの知識や技術を習得する機会が溢れていました。新たに学んだことを自身の作品制作に反映させ、先生方や先輩にご指導いただくというサイクルをくり返すことで大きく成長できた実感があります。

3年生の時には約1ヶ月半車で寝泊まりをして北海道や東北を撮影し、日芸祭や地元で個展を開催した際には様々な評価をいただき大変光栄でした。この経験を活かし、卒業制作では八ヶ岳をテーマに2年間登山して撮影した約10万枚をまとめました。

来年度からは地元の新聞社に就職します。日芸で学んだことを基礎として新たな知見を増やし、仕事や自身の作品制作をより高レベルなものにできるよう、努力してまいります。



## 寺脇早也加 (美術)

継続は力なり。高校3年間没頭した美術を続けようとして芸術学部を受験しました。入学直後は、地方出身の自分と上京してから気づく新しい価値観のずれや周りの勢いの強さに圧倒され、とても悩みました。途中で大学を辞めようと考えもしましたが、先生方に制作する姿勢を見守っていただくことで安心して通い続けられました。私は大学院へ進学しますが、学部4年間を通して疑問に感じた「作品による人への影響」を追求していきたいと思っています。また、画面上の美しさを保ちながら、言葉にすることが難しい感情や思考が昇華された作品を制作していきたいと考えています。そして、個人の想いをテーマとした作品が誰かの支えや固定観念を疑う「きっかけ」になればと思います。

卒業まで乗り越えてこれたのは家族、友人、先生方、助手さんのおかげです。これから先も縁を大切に生きていきます。4年間ありがとうございました。大学院でもよろしくお祈りします。



## 工藤徳真 (映画)

私は地元札幌で子役として舞台上に立ち活動していました。もっと広い場で活躍できる役者になりたいと思い、映画学科演技コースに入学しました。舞台の芝居とは違った難しさがありましたが、とても楽しく映画の芝居を学べました。2年生になると監督・撮録・演技合同で作品を作る機会が多くなり、映画の制作現場を身をもって体験でき、演技に活かせる事が多く学べました。3年生では、出演作品が審査されるという機会に立会い、審査結果や批評内容を聞いて役者、演出、カメラ、音が観客に与える影響を改めて痛感し、卒業制作に向けて気が引き締められました。4年生になり私は4本の卒業制作に参加しました。4年間で学んだ事や、自分の演技プランを監督と話し合いながら撮影に挑みました。審査では、自分の未熟さや足りないことをしっかり自覚でき、これから役者として活動するいい糧となりました。あっという間でしたがとても有意義な4年間でした。



## 村上真由佳 (音楽)

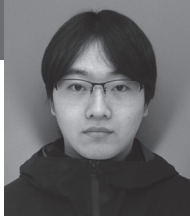
私は幼い頃から音楽が大好きでした。高校は普通科に進学しましたが、音楽を趣味で終わらせることができず、特別支援学校の音楽科教員を目指すため、音楽教育と音楽療法のどちらも妥協なく学べる日芸への進学を決めました。

教職と音楽療法を全て履修し、4年間を通して週に5、6日通っていました。授業の課題や音楽療法実習、実技レッスン、卒業論文研究などに追われながら、放課後は教員採用試験や音楽療法士の資格取得のための勉強をする毎日、本当に思う存分学び続けた大学生活でした。家族や周りの友だちはあまりに忙しい私を心配していましたが、何より同じように頑張る素敵な仲間と切磋琢磨し合えたことがここまで来られた一番の原動力だと思います。

私は目標であった教員採用試験に合格し、4月から東京都立の特別支援学校で音楽科教員として働きます。日芸で学べたことを誇りに思いながら、障害のある子どもたちに音楽の素晴らしさを伝えていきます。



## 川上泰生 (文芸)



「君、本当は何がやりたいの」  
入試面接で先生が仰った言葉が、鼓膜に染みついて離れませんでした。

小説が書きたい、そう思って入学した日芸ですが、ここには甘い誘惑が沢山ありました。特撮部に入った僕は造形に手を出し、映像作品の楽しさを覚え、作曲のよるこびも知り、とうとう自分が何をしに来たのかわからなくなりました。そして友人の筆力に打ちのめされ、うまく作曲できず、造形は先輩の背中が遠く見え、なにか自分の創作的な支柱を失った僕は虚無になりました。僕は何がやりたいんだ。自己嫌悪に泣いたとき、もう一度友人たちをみました。彼らはすべてに全力でした。やりたいことに嘘はつけない。だからすべてやりきる。創作に真剣に取り組む彼らがいたからこそ、僕もなんとか四年間走りきることができました。

気づけばもう社会人です。でもまだ創作意欲は折れていません。社会人としての責務を全うしつつ、これからも創作活動を続けていきます。

## 明利翔 (演劇)



私は編入学で日芸に入りました。入った当初は1年生の授業も並行して受講することになり大変でしたが演劇のおもしろさを学べたのはこの学校のおかげです。そして一番幸せなことは、多くの仲間に出会えたことです。私と同じで編入学をしたメンバーとは「三輪舎」という劇団を旗揚げすることになりました。旗揚げするきっかけとなったのも、上演実習Ⅲという授業のおかげです。これから先一緒に演劇をやっていくと思う出会いは、偶然だとは思えないような気もしています。これから先も、深く演劇の演出を研究したいと思い、大学院の舞台芸術専攻に進学することにしました。また江古田に来る生活が2年もあるので、あまり卒業するという意識はありませんが、これまで、授業などで一緒に作品を作りあげてきた仲間がいなくなることで実感するのだと思います。いつか必ず演劇で飯が食べますように。これからも頑張っていこうかと思ってます。みな様、「三輪舎」よろしくお祈りします(笑)。

## 古畑あずみ (放送)



将来はアナウンサーになりたいと思い日芸の放送学科に入学しました。

アナウンサー職の就活は三年生の夏から始まりました。今までは学校での番組制作やアナウンス実習など日芸内の世界しか知らない学生でした。しかし試験会場に足を運び外に目を向けると華やかなオーラをまとう人達ばかり。自分が見ていた世界はちっぽけだった事を自覚しました。

試験は最終面接まで進むも落ちる事が6社続きました。夢を掴むまであと一歩の所で振り出しに戻される辛い日々でした。

そんな中、四年生の7月にさくらんぼテレビで内定を頂く事ができました。その最終試験では「アナウンサーである事は関係なく、番組作りをする時は積極的にどんな事でもやりたい。私のできる仕事がたとえ8の字巻きや三脚持ちだとしても少しでも貢献させて下さい。」という事を最後に伝えました。これは日芸の実習や文化祭での番組制作を通して私が学んだ事でした。

日芸での思い出を胸に、今後も直向きに努力していきたいと思えます。

## 山外董 (デザイン)



日芸に入ったきっかけは自分の中の挫折だったと思います。高校3年間で挫折し、自分には何ができるのかと悩んでいた私は大学を決める時もなんとなく先生に勧められたからという理由でデザイン学科を受けました。ですが、大学に入ってから毎日は自分が思っていたよりも遥かにいいもので、刺激のある毎日でした。こんなこともデザインに入るのかと思わされることばかりで、幅広い分野を勉強しました。違う価値観をもった友人や外部の方と触れ合い、自分の世界がまた広がっていくように感じました。なにより嬉しかったのは、たくさんの世界を知って作品を作ることがもって楽しくなったことです。あんなに自信なく過ごしていた高校時代とは比べものにならないくらいたくさんの方と関わることができ、お世話になりました。今ならこの大学を選んでよかったのだと、胸を張って言うことができます。

# お世話になった先生方

山本英史（映画S57・1982年度卒）

映画学科の実技系の学生なら、宮沢さんのことを知らない者はいないだろう。三年実習の短編から卒業制作、そして自主映画の準備から完成プリントまで徹頭徹尾、お世話になって頼ってしまったのが、宮沢さんだった。

準備段階からマキが入り、苦心惨憺の撮影をやつとの思いで終えて、遅れていた編集をやろうと朝一番に学校に行くと、宮沢さんは既に編集室にいて、パワー100%のデカイ声で「早く編集しろ！」とハッパをかけられた。なんせ黒澤明並に背が高いから迫力満点だ。

夜も一番最後まで残って、放っておくと徹夜しそうな駄目学生の尻を叩いていた。年末など、「ホントはいけなただけど」と言いつつ編集機材一式を自宅に持ち帰らせてくれて、僕は正月返上で編集に没頭できた。

僕らの年代は、自主映画がブームになった時代で、実習や卒業制作以外でも、なにくれとなく面倒を見てくれたのが「宮ちゃん」（当時はまだ教授ではなかったので「宮沢先生」と呼ぶと「先生と言うな!」と怒られた）だった。とにかく、学生が映画を作ることに、これほど協力的で助力を惜しまない、文字通り献身的な人を、他に知らない。誰よりも、学生の「やる気」を買ってくれたのだ。

学校の機材や設備を借りるならば、多くの関門をくぐり抜けなければならぬ。映画学科の教職員には「駄目」練り直してこい」と必要書類などを突き返されたのだが、最後に宮ちゃんに泣きつくとき「どうしてもこれをやりたいのか? じゃあ判った。おれが話しといてやるよ」と、なんとかしてくれた。

生意気なだけで実行力が伴わない学生にとって、宮ちゃんはまさに「地獄にホトケ」の存在だった。

僕の場合、卒業制作でオール日大の運動会を利用して旧国立競技場でアクション場面のロケをしたのだが、「聖なる聖火台で殴り合い」の場面を撮ったことで国立競技場側が激怒して、日本本部と芸術学部、そして映画学科もかなり怒られたらしい。しかし宮ちゃんは笑って「まあ、仕方ないよな!」で済ましてしまい、一番の責任者だった僕には一切お咎めがなかった。学部や学科にも感謝したが、一番感謝したのは宮ちゃんだった。たぶん、僕の代わりにかなり怒られたはずだから。

機材貸し出しの窓口だった捧さんにも、本当に無理を言って

困らせた。倉庫の隅で埃を被って眠っていた35ミリの国産ミツチエルを引っ張り出して整備して使えるようにしてくれたり、買ったばかりの移動車を無理矢理引っ張って壊してしまったり……。しかし、最後は「仕方ねえなあ!」と笑ってなんとかしてくれた。

現像場の石田さんにも、無理なスケジュールでネガもポジもオプチカル作業も、すべての現像をなんとか受けてもらった。フィルム時代、現像が最終的な正否を決めたわけで、石田さんは最終段階の頼れる存在だった。

録音部門の先生やスタッフの方々にも多大なお世話になったのだが、すでに日芸を去って仕舞われた。

生フィルムさえ買ってくれば、映画が撮れて学内ですべての工程が出来て、完成させることが出来た。機材費・現像費・スタジオ代はナシ! しかも四年という時間もある。こんな夢のような環境は、当時の日本では日芸映画学科にしかなかった。その当時は、設備があるから出来るんだと思っていたが、それはまったくの考え違いだった。学生に協力的な先生やスタッフの方々がいらっしゃったからこそ、出来たことなのだ。

学生時代は、なにかというとダメと言われ規則に従えと言われて嫌だったが、社会に出ると比較にならないほど厳しい関門が立ち塞がっていた。世間知らずのガキは、ずいぶん宮ちゃんをはじめ先生やスタッフに守られていたのだと、その時やっと判った。

そして……卒業してからも宮沢さんに電話すると、最初の第一声で「おい、山本!」と瞬時で名前でも呼んでくれる。在校生なら当然かもしれないが、卒業して何年経っても、即座に名前が出てきて、交友関係も実習作品も卒業制作も、中味まで覚えていてくれる。まさに驚異的な記憶力で、卒業生への深い愛情を感じて感動してしまう。

捧さんも石田さんも、数年前の映画学科の同窓会で久々にお目にかかったときに、顔を見た瞬間に「面倒かけられたよなあ」と笑顔で話して戴いた。卒業生として、こんなに嬉しいことはない。映画学科を卒業した幸せを心から思う瞬間だった。

お世話になったお三方が、この度退任されると聞き、心からのお礼を述べたくて、この一文を記しました。有り難うございました。

# ウンレン・ブンレン

運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中

## 運動部連盟 剛柔流空手道部

伝統の重み（芸術と武道）

当部は1946年創部以来75年の伝統と歴史を紡いできました。古くは剛柔流全国大会での個人の部優勝を勝ち取った強者が数多く在籍した、ガチの運動部。

現在、部員10名が日々稽古に励んでいます。技術は剛柔流宗家会長・山口剛史先輩（映画学科OB）より指導を受け、OB

会 会長・生沼剛全空連6段（文芸学科卒 元全空連事務局長）の支援もあって、年6回の試合に参戦！

春は新歓、夏は合宿、秋は日芸祭、冬は昇段審査と年中行事は変わりませんが、昨年の江古田通年化を契機にさらなる練磨とクリエイティブな発想で邁進しています。

空手道部主将 木村 拓生

## 文化部連盟 落語研究会

「絶滅の危機、落語研究会」

落語研究会（略称：落研）は週に3回稽古を行い、月に一度ある寄席や校外での落語会で落語を披露するのが主な活動内容です。これだけ聞くとかなりバリバリに活動していると思われるがちですが、全くその通りです。他にも夏と春に合宿を行ったり、学生落語選手権に出場してみたり、1年を通して色々な活動をしています。そんな落研は今、絶滅の危機に立たされています。

現在（2020年4月）、部員は2年生から4年生で計5名。唯一の公認お笑いサークルであり、長い歴史（創立60年以上）と伝統を持つ落研は今年の新入生の人数次第では、絶滅してしまいます。（いやーッ!!）現在部員一同、何とかして新入生を丸め込む

ために、毎日優しそうな笑顔と「ところで君、落研に入らない？」の台詞をどう歯を輝かせて言うかという研究を続けております。（落語やれや）もちろん落語だけではなく、漫才やコント等も採り入れて、日に日に進化し続けている落研。部員一同は伝統と支えてくださる師匠方、OB・OGさん、大学や地域の方々のために、日々稽古に精進していきたいと思っております。どうかこれからも日芸落語研究会をよろしくお願い致します。

落語研究会 会長 篠原佐和  
【高座名：魔王院 <sup>まおういん</sup> 大和 <sup>やまと</sup>】



## 思い出のクラブハウス



### 学食下の部室

空手部	庭球部				
剣道部	合気道部				
スキー部	バスケット部				
自動車部	卓球部				
執行部	バレー部				
	少林寺				
	硬式庭球部				
シャワー・トイレ	ラグビー	野球部	徒歩旅行部	スケート部	文連

### 本館地下の部室

道場	アメフト
	サッカー
	空手 (ボクシング)



## 写真学科

### ■4年生(当時)の毛利修一郎さんが第69回作品展で入賞!

1950年に学生の美術振興を目的に設立され、多くの才能あふれる入選者を輩出し、美術界の登竜門といえる学展・学生アート&デザインコンクールの大学・専門部部門において毛利さんの「Nightmare」が入賞を果たしました。入賞といっても上位受賞者4名の1人であり、写真ではトップです。このコンクールは、絵画、彫刻、写真、工芸、デザイン、イラストなど幅広い分野の作品を一堂に会し、総合的に審査するものです。その中で写真による受賞は、写真界にとっても嬉しいことです。作品は11月28日～12月8日まで国立新美術館で展示されました。



### ■写真学科創設80周年記念パーティ開催

令和元年10月29日(火)18時30分より、日本大学芸術学部芸術資料館およびW301教室において、「卒業生による木村伊兵衛賞 土門拳賞受賞記念作品展」および現在活躍中の若手・中堅写真家による写真展「フォトグラフィティ3」のオープニングとあわせて写真学科の創設80周年を祝いました。写真展出品者や、来賓、卒業生など多くの方にお集まりいただきました。芸術学部副学部長の川上教授からお言葉を、写真学科卒業生であり日本写真文化協会元会長の大石直臣様に乾杯のご発声をいただきました。前回の記念の会は創設50周年であり、それから30年、所沢校舎と江古田校舎で学ぶ2校舎体制を経て、令和元年4月より通年化で全学年が江古田校舎に戻りました。この30年間の所沢での歴史を加えた写真学科年表や所沢校舎の写真、開催したオリジナルプリント展のすべてのDMなどを掲載した『日本大学芸術学部写真学科創設80周年記念 写真学科80周年記念アルバム』を歴史を残すべく作成しました。



## 映画学科

■令和元年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第47回渡辺俊平記念賞 (映像表現・理論) 高橋名月

☆第22回答見有弘賞 (映像表現・理論) 高橋佑弥

☆第13回大竹徹賞 (映像表現・理論) 野村明日香

☆第14回八木信忠賞 (録音) 田辺ちひろ

☆第44回映画学科奨励賞

(映像表現・理論) 福島瑞木、弦巻昇平、福本陽子、  
(監督) 森山舞子、(撮影) 大野夏、(録音) 須川智陽、  
(演技) 石川愛海

☆第29回映画学科選奨

(映像表現・理論) 大和久直樹、佐藤壮悟、大木優摩、  
(監督) YOON HYEON、(撮影) 譲原悠太、(録音) 渡邊仁史、  
(演技) 嶋田美佑

☆第27回映画学科特別賞(伊藤忠ケーブルシステム株式会社提供)

(映像表現・理論) 金子絹和子、木崎峻、伊藤愛海、  
(監督) 増田晶子、(撮影) 久松友佳、(録音) 柏崎南、  
(演技) 芳村宗治郎

☆第17回アトライティング賞(東芝ライテック提供)

(撮影) 伊藤ゆり〔照明にたいして〕

☆第19回映画学科コダック賞(コダックジャパン提供)

(監督) 村本晃来、三原田佳奈、(撮影) 深澤杏奈、田邊健太、  
(録音) 幕内智美、柴田みずき、(演技) 田中日奈子、石川榛名  
☆第5回三善賞〔(株)三善提供〕(演技) 菅家萌音

・以下の各賞が、映画演出Ⅲ・技術Ⅲ・総合制作演習Ⅱに授与されました。

☆江戸クリエイト賞

(監督) 片倉春花、松平丈生、近藤将太

☆三善賞 (演技) 松本偉大

☆映画学科コダック賞

(撮影) 山路貴子、小林明音、吉田芙羽、辻菜摘、遠藤匠、  
小池祐太郎

☆映画学科特別賞 (録音) 西田康佑、小田理沙子、宮原哉也子

☆アトライティング賞 (撮影) 助川澄海令

・令和2年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。田中美甫講師(洋舞)



## 美術学科

## ■宮田みな美さん、昭展会にて「パリ賞」受賞

第55回昭展会が3月18日から30日まで銀座、日動画廊にて開催され、宮田みな美さん（16年絵画卒）の作品《ここに咲く》が「パリ賞」を受賞。パリの日動画廊アトリエにて作品を制作する機会が与えられる。



宮田みな美 《ここに咲く》油彩・カンヴァス 116.7×116.7cm

■全国大学版画展にて「優秀賞」茂木ひとみさん・長沼翔さん  
「町田市立国際版画美術館賞」長沼翔さんが受賞

版画の彩展2019第44回全国大学版画展（47校225名が出品）が昨年12月7日から22日まで開催され、「優秀賞」を茂木ひとみさん、長沼翔さん、「町田市立国際版画美術館賞」を長沼翔さんが受賞した。

尚、「町田市立国際版画美術館賞」は美術館収蔵となる。



長沼翔 《Girl 9.1》銅版画 60.6×95cm



## 音楽学科

令和元年度の卒業論文要旨発表会、卒業演奏会はコロナウイルス感染拡大防止のため、開催を中止いたしました。卒業論文、卒業演奏審査において優秀な成績を修めた者は下記の通りです。

## ●令和元年度 卒業論文 優秀者

＜音楽教育コース＞ 小林奈津子、佐々木香澄、西村涼夏、鎌田純菜、荒川史奈

＜情報音楽コース＞ 桐野遼、森田直也、田畑礼那

## ●令和元年度 卒業演奏審査会 優秀者

＜声楽コース＞ 折笠夏美、原佳穂、千葉南々帆

＜ピアノコース＞ 高橋利昌、大久保帆夏、平原晨太郎、金丸真子、渡部泉希

＜弦管打楽コース＞ 渡邊詩乃、柳澤愛香、三輪まりな、小関悠太、粕谷真悠子

## ●日本ピアノ調律師協会主催 第21回新人演奏会

開催延期（開催日未定）東京文化会館・小ホール

ピアノ独奏 渡部泉希

## ●第90回 読売新人演奏会

開催延期（開催日未定）東京文化会館・大ホール

ピアノ独奏 渡部泉希、フルート独奏 粕谷真悠子

## ●ヤマハ管楽器新人演奏会

開催延期（開催日未定）第38回クラリネット部門 ヤマハホール  
クラリネット独奏 庄司和広

開催延期（開催日未定）第36回金管部門 ヤマハホール

トロンボーン独奏 小関悠太

## ●ムラマツ・フルートデビューリサイタル

開催中止 東京オペラシティ・リサイタルホール

フルート独奏 粕谷真悠子（小リサイタルの形で演奏します。）

## ●令和元年度でご退職なされた先生は次の通りです。

長い間ありがとうございました。

芦川紀子先生、花岡詠二先生、大木孝雄先生、渡辺ローザ先生、寺田悦子先生、三浦章宏先生

## ●今年度より次の先生が新たに講座を担当しております。

加藤徹也先生、齋藤優輝先生、田中花乃先生、吉田行地先生

## ●訃報

渡辺ローザ先生が4月2日に、末芳枝先生が4月27日に、赤澤立三先生が5月22日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



## 文 芸 学 科

### ■卒業生の武井風太さんがFGOアニメの脚本を担当

2003年度卒の武井風太さんが、2019.10.5から放送のテレビアニメ『Fate/Grand Order 絶対魔獣戦線バビロニア』にて文芸協力、および複数話の脚本を担当しました。

### ■卒業生のひなちほこさんが「MF文庫J」でデビュー

2015年度卒のひなちほこさんが、第15回MF文庫Jライトノベル新人賞佳作受賞作「特殊能力統轄学院 叛逆の優等生と悪魔を冠する少女の共犯契約」で作家デビューしました。2巻は2020.3.25に角川 MF文庫Jにて発刊予定です。

### ■卒業生の高橋優さん「第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”文学部門」受賞

2016年度卒の高橋優さん（ペンネーム：熾野優）が「第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”文学部門」を受賞しました！

### ■熊木詩織さん（大学院前期課程1年生）が第15回深大寺短編小説『深大寺恋物語』で最優秀賞を受賞

熊木詩織さん（大学院芸術学研究科博士前期課程文芸学専攻1年生）の小説「微香」が第15回深大寺短編小説『深大寺恋物語』公募で最優秀賞を受賞しました。

### ■院卒の佐々木樹さんの作品が「みなとメディアミュージアム2019」にて大賞を受賞

大学院博士前期課程文芸学専攻修了生の佐々木樹さんの作品が「みなとメディアミュージアム2019」にて最高賞である大賞を受賞しました。選評などの詳細は下記サイトにてご覧いただけます。  
<https://minato-media-museum.com/2019/09/prize2019/>

### ■文芸学科教員の新刊紹介

□佐藤洋二郎『佐藤洋二郎小説選集二「カプセル男」』（論創社 2019.10.28）、『未練』（ワック 2019.11.18）

□高橋幸治『Rethink Internet：インターネット再考』（星雲社 2019.11.27）

□浅沼 璞『塗中録』（左右社 2019.11.30）

□上坪裕介『山の上の物語 庄野潤三の文学』（松柏社 2020.2.25）



## 演 劇 学 科

### ■演劇学科創設70年祝賀会

演劇学科は2020年、創設満70年の節目を迎えました。

これに先立つ記念祝賀会が「第6回演劇学科校友の集い」として、2019年9月27日午後、新宿京王プラザホテルにて盛大に開催されました。

当日は380名余の校友が会場狭しと参集し、それぞれの思い出話を花を咲かせ有意義な時間を過ごしました。



### ■受賞のお知らせ

□新進気鋭の劇作家を顕彰する「第19回AAF戯曲賞」（愛知芸術劇場主催）の最終審査が本年1月開催され、大賞を小野晃太郎さん（平成25年度卒）が受賞しました（受賞作「ねー」）。おめでとうございます。

同大賞は前年にも、山内晶さん（平成22年度卒）が受賞しており（受賞作「朽ちた蔓延る」）、劇作コース卒業生2年連続受賞の快挙となりました。

なお、これら受賞作は同劇場ホームページから閲覧可能です。

□サロン・ブラン美術協会主催「第24回日仏現代国際美術展」において、向瀬杜子春さん（昭和48年度卒）出典の写真「まなざしⅦ」がサロン・ブラン優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。





## 放 送 学 科

## ■在校生がラジオCMコンテスト最優秀賞受賞

3年生の高橋真由さんが、自身の学校をPRするラジオCMコピーを競う「JFN学生ラジオCMコンテスト2019」で最優秀賞を受賞しました。8回目を迎える同コンテストで芸術学部生が最優秀賞を受賞したのは初めてです。

特別審査員の弘兼憲史さん・谷山雅計さん・箭内道彦さんから素敵なオチが評価された高橋さんの作品は、放送局との協働のもとラジオCM化され、1ヶ月間全国放送されました。そのラジオCMは以下のURLで聞くことができます。

<http://podcast.jfn.co.jp/poddata/cmc19/05.mp3>

## ■EXILE、三代目J SOUL BROTHERS 特別講義

EXILE、三代目J SOUL BROTHERS小林直己氏による特別講義が2020年1月16日、放送学科の主催で行われました。放送学科だけではなく、他学科の学生にも公開しての講義に多くの学生が集まりました。

『個から世界へ』をテーマに、Netflixでハリウッドデビューを果たした小林氏が、その経緯や次世代エンタテインメントについて、休憩を挟んで3時間を超える熱のこもった講義を行いました。

## ■第13回日藝賞 小野大輔氏が受賞記念講演

第13回日藝賞を受賞した放送学科出身の声優・小野大輔氏が2019年11月9日、約300名の学生を前に受賞記念講演を行いました。言葉への思いや芸術の道を歩もうとする後輩たちに向けコミュニケーションの重要性を熱く説きました。また、声優として出演した代表作について、その作品の鍵となるセリフに込めた思いを語り、作品さながらにセリフを決める小野氏に会場の盛り上がりは最高潮となりました。

## ■一ノ瀬邦夫先生がご逝去されました

永年に亘り放送学科教授として活躍された一ノ瀬邦夫先生が2020年1月14日にお亡くなりになりました。享年84歳でした。先生は学科主任をお務めの後、学部長にも就任され学科だけではなく学部全体の発展に大きく貢献されました。

授業は「テレビ制作」などをご担当され、多くの卒業生を輩出されました。

心よりご冥福をお祈りします。



## デ ザ イ ン 学 科

## ■若原一貴准教授が建築賞を受賞

若原一貴准教授が設計した「牛窓の家」が『屋根のある建築作品コンテスト2019』住宅部門で最優秀賞（タニタハウジング主催）、また、同じく若原准教授設計の「辻堂の家」が第63回神奈川建築コンクール 住宅部門で優秀賞を受賞しました。

## ■笠井則幸教授が韓国のデザイン賞を受賞

昨年秋に本学部芸術資料館とA&Dギャラリーで開催された「NICHIGEI&BAUHAUS展」のプロモーションポスターとして笠井教授がデザインした2作品が、『ASIA DESIGN PRIZE』において、最高賞であるTeam of the Yearに続くGrand Prizeを受賞しました。ASIA DESIGN PRIZEは、韓国のデザインポータル「DESIGNSORI」の主催で2017年から開始し、今回で4回目となる国際デザインコンペティションです。

## ■日本タイポグラフィ年鑑2020に学生が多数入選

日本タイポグラフィ協会が主催する日本タイポグラフィ年鑑2020のコンペティションにて、本学デザイン学科学生が多数入選しました。入選作品は2020年4月発行の日本タイポグラフィ年鑑に掲載されます。入選者は以下のとおりです。

長谷川沙恵（3年） 漢字の体  
竹内 彩乃（2年） まるあわモダン  
川俣 史乃（2年） ひつじもじ  
上里くるみ（2年） もじもん  
古瀬 愛（2年） ゆらあわフォント  
平尾まりこ（2年） こめつぶフォント

※日本タイポグラフィ年鑑のディレクションとデザインは笠井則幸教授▶



## ■村上実紗子さんが『新聞広告クリエイティブコンテスト』で学生賞を受賞

2019年度 新聞広告クリエイティブコンテストにて村上実紗子さん（デザイン学科3年）が学生賞を受賞しました。このコンテストは若いクリエイターに新聞広告を制作する機会を提供し、新聞広告の可能性を広げてもらうために実施しています。今年のテーマは「新聞広告を広告する」。681点の応募作品の中から学生賞に選ばれました。

※学生の学年は受賞当時のものです。

# 学部の優秀者

日本大学学長賞・優等賞、優秀賞、芸術学部長賞、芸術学部奨励賞など  
卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表がありました。

●日本大学学長賞（学業部門）

○文芸学科 高橋 実里

●日本大学芸術学部優等賞（学業部門）

○写真学科 野々村早紀、櫻井 泰  
新倉 南、須田崇太郎

○映画学科 増田 晶子、柏崎 南  
金子絹和子、森田 瑠美

○美術学科 東尾 文華、阿部七菜子  
吉田 文香、寺脇早也加

○音楽学科 小林奈津子、桐野 遼  
西村 涼夏、鎌田 純菜

○文芸学科 大野 瑞紀、田村 紗穂  
高橋 実里、武田 穂佳

○演劇学科 細井 七海、工藤かえで  
小西花菜子、高橋 星音

○放送学科 遠藤えみり、野木 芽里  
橋山 実由、藤村 純

○デザイン学科 大野 遥、山外 董  
袴田 栞汰、渡辺 文佳

●芸術学部長賞（学業部門）

○写真学科 宇田 渉平、櫻井 泰  
新倉 南、成田 颯一  
河西 宏樹

○映画学科 溝口明日花、小萱 彩音  
長谷川ゆい、鈴木エレナ  
佐藤そのみ

○美術学科 東尾 文華、阿部七菜子  
岩崎 紘陸、村上 蒼  
寺脇早也加

○音楽学科 荒川 史奈、粕谷真悠子  
千葉南々帆、渡部 泉希

○文芸学科 大野 瑞紀、高橋 実里  
武田 穂佳、岩田寅次郎  
佐藤 述人

○演劇学科 北嶋なるみ、渡部 果穂  
中澤 瞭斗、光澤 文香  
須崎 汐理

○放送学科 大川 稜祐、石原 由也  
本多日花理、井上 萌香  
菅沼紗也子

○デザイン学科 豊村 泰平、袴田 栞汰  
久保田優海、白川 樹  
前田 千尋

●芸術学部奨励賞

○写真学科 中野 優太

○映画学科 工藤 咲穂

○美術学科 佐藤 澄霞

○音楽学科 田畑 礼那

○文芸学科 前田龍之祐

○演劇学科 牛島 青

○放送学科 福谷 将知

○デザイン学科 吉田 英司

●金丸重嶺賞

○写真学科 ZHAO XIRAN

小川 泰弘、小野寺 杏

●渡辺俊平記念賞

○映画学科 高橋 名月

●呉正恭賞

○放送学科 粕谷 汐里

●川野希典賞

○演劇学科 中嶋 美虹

●筈見有弘賞

○映画学科 高橋 佑弥

●大竹徹賞

○映画学科 野村明日香

●八木信忠賞

○映画学科 田辺ちひろ

<大学院>

●日本大学芸術学部湯川制賞

○文芸学 川島 佑太

○映像芸術 ZHANG QIAN

○造形芸術 茂木ひとみ

○音楽芸術 金 重源

○舞台芸術 KIM HEE JIN

●日本大学芸術学部澤本徳美賞

○文芸学 飯塚 舞子

○映像芸術 該当者なし

○造形芸術 GAO YONG LE

○音楽芸術 下田 貴大

○舞台芸術 渡邊 未有

# 日本大学芸術学部 校友会の皆さんへ

日本大学芸術学部長・芸術学部後援会名誉会長  
木村政司



## 芸

芸術学部長校友会の皆さま、お元気でしょうか。昨年は、校友会長と共に内外各地方校友会総会・懇親会に参加できお話ができたことに深く感謝し、嬉しく思っております。しかし、今年は、私たちが今まで遭遇したことのない感染症拡大の危機を、乗り越えていくために、皆さまも日々の生活の中で大変なご苦労されていることと思います。特にコロナ感染症と闘う重大な局面にいる医療関係者の方々のことを考えれば、自粛疲れを口にするこすら恥ずかしく、襟を正して心から敬意を表したいとつくづく思います。

かつて世界は、マラリア、ペスト、コレラ、麻疹、肺結核、AIDSやSARS、インフルエンザと、同じような道をたどりました。このウイルス感染拡大を克服するためには、ひとりひとりが予防対策を長期的に徹底し、それを普通にするこです。

日藝は、卒業式も入学式も中止しました。今年度のイベントや事業計画も、感染拡大防止の観点から、ほとんど中止にせざるを得ません。学生たちには可哀想なことですが、仕方のないことだと思えます。しかし、教育を止めるわけにはいきません。そこで、皆さまもご存知のように、今までのような対面授業ではなく、オンラインで授業を実施することにしました。全ての授業を、ネット利用したオンラインで行うことにはやはり限界があります。日藝は対面授業が命です。今現在、5月末までキャンパスへの立ち入りを禁止していますが、今後、「感染しないための連帯感」をもって、規制が段階的な解除になっていけば、徐々に対面授業ができるようになると考えています。そして、何よりも、学生とその家族の命、そして教職員とその家族の命を守ることが大切です。

「新たな日常」を考えていく中で、「新たな日藝」を創造してみると、教育や研究に進化の兆しが見えてきます。来年の日藝創立百周年に向けた、開発目標であると考え始めています。

芸術学部長校友会の皆さまの母校を強く愛するお気持ちに応えるべく、私たち教職員一同、引き続きこの感染症を克服しながらも、創立百周年を迎える日藝のスピリットを守っていくことをお約束いたします。また、これから在校生の休学や退学、経済状況が困窮する学生の増加も予測されます。私たちはできる限り、学生支援のために全力を尽くして参りますので、OB・OGの皆さまにもご支援をよろしくお願い致します。

芸術学部長校友会の皆さまのご健康と、ご活躍を心よりお祈りしております。

令和2年5月13日

# information ■ 校友会からのお知らせ

## <百藝>

- 1889年 日本法律学校 が創立（日本大学）。
- 1921年 東京神田三崎町の日本大学法文学部内に美学科（芸術学部前身）が誕生。美学科学監に松原寛就任。
- 1933年 東京本郷金助町に移転し自習室を整備。此の頃「日本大学芸術学園」と呼称。
- 1939年 専門部芸術科に宣伝芸術・写真・商工美術の3専攻を増設。8専攻となる。板橋区江古田町（現在の校舎）に移転。
- 1948年 日本大学芸術学部校友会が創設。
- 1989年 所沢校舎を開設し、教養課程を移転。
- 1993年 大学院芸術学研究科は5専攻となる。
- 1996年 大学院芸術学研究科博士後期課程を増設。
- 1996年 デザイン学科を増設し、現在の8学科となる。
- 2010年 江古田キャンパス新校舎修祓式を挙げる。
- 2021年 日本大学芸術学部は創設百周年を迎えます。



2021年には日芸創設100周年の年を迎えます。

卒業生総数約4万人。現在木村学部長をはじめ学部執行部の皆さんが、周年事業の企画立案を行っています。次回の会報誌で学部長より案内があるかと思いますが、その時は応援、協力宜しく願います。

\*校友会で、「百藝」をモチーフにした本染めの手拭いを1本500円で販売しております。

お問い合わせは事務局まで。

伝えよう あなたの感動を

# ジッピー

株式会社 ジッピープロダクション

住所：東京都渋谷区恵比寿1-19-15ウノサワ東急ビル3階  
 職種：総合映像制作  
 詳しくはホームページで

<https://www.zippy-pro.co.jp>

興味をもたれた方は  
是非ホームページより  
エントリーしてください



MC、ナレーター、コンパニオン、モデル、  
運営スタッフ等、募集中です

<http://www.long.gr.jp>



株式会社ロングアイランド

OSAKA OFFICE 大阪市中央区道修町 2-5-9 Phone06-6231-0100

TOKYO OFFICE 東京都品川区西五反田 1-11-6 Phone03-5759-7800

## お詫びと訂正

2019年秋発行会報誌103号において誤りがありました。

つきましては、下記のように訂正をさせていただくとともに、関係者の皆様にご迷惑をおかけしてしまい深くお詫び申し上げます。

4ページ卒業生ストーリー「今、ここで。」  
(誤) 安倍成孝 → (正) 安部成孝

## 常任幹事の変更

音楽学科 田口順一 (S33・1958年度卒)  
→ 大槻秀一 (S53・1978年度卒)

## 探し物

日芸校友会発行の古い会報誌を探しています。お持ちの方は、事務局までご一報ください。

◎本誌へのご意見、住所変更、広告の掲載などのお問い合わせは、事務局までご連絡ください。

電話、FAX、メールのいずれの方法でも結構です。

日本大学芸術学部校友会事務局

〒176-8525 東京都練馬区旭丘2丁目42-1

日本大学芸術学部に

電話番号 03(3554) 5363 FAX番号 03(3554) 5364

メールアドレス ekoda.koyu@gmail.com

## <写真学科同窓会：新写真派協会からのお知らせ>

令和2年5月20日に令和2年総会・懇親会・新入会員歓迎会を開催する予定でしたが、懇親会・新入会員歓迎会は中止とし、総会は延期とします。総会の開催時期や方法につきましては、決まり次第、ホームページ等でお知らせ致します。

また例年、総会終了後に、総会関係の内容を主としてニュースを発行し、同時に会費振込用紙をお送りしておりました。今年度は例年のような会費納入のお願いができませんので、会員の皆様におかれましてはホームページをご参照頂き、会費納入(年会費 3,000円 複数年納入可)をお願いできればと存じます。http://shinshashinha.com/会費/



その一瞬を、  
その感動を、  
その勇気を、

all sports  
& culture  
**Live**  
Creator

  
CIC Inc.

株式会社シーアシー

〒105-0004 東京都港区新橋5-9-1 新橋5丁目ビル1F  
TEL 03-5777-5350 FAX 03-5777-5351 www.cicinc.co.jp

イベント・セールスプロモーションの企画・制作・演出・運営/アイススケート・ファンクラブ「アイスクリスタルの運営」



挑戦しないと体験できない。  
<https://www.dna-ex.co.jp/>

Catch Up



Multi Direction Company  
**DNA**

**新卒、中途募集中!**

社名 株式会社ディー・エヌ・エー  
住所 東京都品川区西五反田1-28-6 パーク第3ビル Phone: 03-5740-8100  
電話番号 一般労働派遣事業許可 般13-305188  
許可証 警備業法 第30004011号 プライバシーマーク 第10830256(07)  
一般建設業 東京都知事許可 (般-27) 第143261号  
業務領域 イベント・プロモーション全般

## 日本大学芸術学部校友会各支部（江古田会）連絡表

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	連絡窓口	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送S52・1977年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇S32・1957年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽S54・1979年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇S53・1978年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送S55・1980年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術S52・1977年度卒	023-631-8040
ふくしま江古田会	吉田 公之	美術S39・1964年度卒	090-5845-1724
新潟江古田会	増井 伸一	写真S48・1973年度卒	025-233-3910
長野江古田会	三浦 博之	放送S49・1974年度卒	0263-46-2583
愛知江古田会	藤田 勝	演劇H9・1997年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫	音楽S50・1975年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸S53・1978年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真S44・1969年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利	映画S40・1965年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	奥村 隆志	写真S43・1968年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真S52・1977年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送S49・1974年度卒	090-3739-7374
中国江古田会	馮 建国	院H9・1997年度卒	—
台湾江古田会	林 舜龍	美術S61・1986年度卒	—
韓国江古田会	イ サンユン	院H8・1996年度卒	—

会社は人、人はチカラ

**nichiki**

株式会社 **日企**

住所・東京都港区虎ノ門2-4-1 虎ノ門ピアザビル  
 職種・テレビ番組制作/映像制作  
 詳しくはホームページで [www.nichiki.co.jp](http://www.nichiki.co.jp)



**ROBOT**



映像エディター  
 デザイナー  
 TVCMプロダクション  
 マネージャー 等

経験者  
 募集  
 中者



応募・問合せ先

[recruit@robot.co.jp](mailto:recruit@robot.co.jp)

(株)ロボット 東京都渋谷区恵比寿南 3-9-7

<https://www.robot.co.jp>

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、2020年度春の江古田キャンパスに学生の姿はありません。5月11日からオンラインによる授業がスタートする予定ですが、対面授業でなくなったときに何を失い、代わりに、どんなしがらみから逃れられるのか？というところから考え始めないと“代替物”を学生に押しつけることとなります。まさに大学とは何かを試されている最中なのだと思います。(青木)

- 発行人 田上 竣詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 小泉 定弘、山本 英史、高松 豊、安部 裕、茅原 良平、長瀬 浩明、青木 敬士、稲垣 進一、千北 正
- 表紙デザイン 日本大学芸術学部 学部長 木村 政司
- 印刷所 江戸クリエイト株式会社  
東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル  
電話 03-3814-1225

## 8つのアート1つのハート

**N**  **U**  
Nihon University College of Art  
**A r t**

## 日本大学芸術学部

日本大学芸術学部校友会報・第104号

2020年春季号 ● 令和2年6月発行 ●

非売品

不許可転載

- 発行所 日本大学芸術学部校友会  
〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1  
日本大学芸術学部に  
電話 (03) 3554-5363  
事務担当 星野 祥子

URL : <http://www.koyu.art.nihon-u.ac.jp>

メールアドレス : [ekoda.koyu@gmail.com](mailto:ekoda.koyu@gmail.com)



**記憶に残る記録を創造**  
<https://www.wo-gr.jp/w-o/>

**新卒・第二新卒大募集!!**

**社名** ウッドオフィス株式会社 WOOD'S OFFICE

**住所** 東京都港区新橋5-26-5 ウッドグループビル

**電話番号** 03-6402-1221

**業務内容** 映像コンテンツ企画・制作  
(テレビ番組・ビデオアフレコ・ポモナール・デジタルコンテンツ)  
イベント企画制作/セールスプロモーション企画制作



**新卒・中途 制作スタッフ募集中!**  
応募はHPからお願いします



**Top Scene INC.**

**PRODUCTION  
INTERNATIONAL  
CULTURAL PROGRAM  
SALES PROMOTION**

**株式会社 トップシーン**  
東京都渋谷区渋谷2-14-17 渋谷SSビル9F  
TEL : 03-3797-3789 HP : [topscene.co.jp](http://topscene.co.jp)

**【事業内容】**  
テレビ番組の企画・制作/映像コンテンツの企画・制作/  
アジア(中国・韓国等)のロケーションコーディネーター/  
イベント企画プロデュース/コンサート企画プロデュース



EKODA  
CAMPUS  
RENEWAL  
for NEXT 100 years



1921-創設100周年-2021  
Nihon University College of Art